

---

○議長（土屋清武君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時00分）

---

◇ 深 澤 守 君

○議長（土屋清武君） 一般質問を続けます。

通告順位3番、深澤守君。

（3番 深澤 守君 登壇）

○1番（深澤 守君） 通告に従いまして、壇上より、1. 町長の行政運営について。

①町長は、町のトップとして公平な行政運営が当然であるが、特定の業者への発注を抑制するような指示があったと聞くが、どのようなことかお答えください。

2. まつぎき荘の運営について。

①料金改定後、まつぎき荘の7月からの4か月間で宿泊者数が前年度比約730人減少しているが、現状の分析状況と今後の改善策についてお答えください。

②まつぎき荘の建て替えの理念の一つに、地元経済の活性化がある。町外業者からの材料調達が増えたと聞くが、どのような状況ですかお答えください。

3. 道の駅整備計画について。

①道の駅パーク基本構想に基づき天城山房の改修や直売所の新設が計画されている。全員協議会において直売所及び天城山房の売上見込みの説明を受けたが、直売所及び天城山房の売上見込みの数字は過大に思える。この見込み数値を見直し、精査しなおすべきではないでしょうか。

②直売所及び天城山房の運営の成否については町長の指導力が問われる。まつぎき荘の利用者数の減少や、順天堂病院直通バスの需要見込みの誤りもあり、これからの道の駅の運営が心配される。経営不振に陥ったときなど自らの責任をどう考えるのかをお答えください。

以上3点について質問をさせていただきます。よろしく申し上げます。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 深澤議員からの質問にお答えします。

まず、1. 1. 町長の行政運営について。

①特定の業者への発注を抑制するような指示があったと聞くが、どういうことかということでもあります。

建設工事及び調査、設計、管理に係る業務委託等を発注する場合には、町における指名選考の公平性を確保するため、松崎町建設工事等入札業者指名選考委員会が設置されており、委員会により工事等の内容や過去の実績、地域などを考慮し、調査審査し指名業者を選定しております。

また、予定価格が130万円を超えない工事や50万円を超えない契約、緊急の必要により競争入札ができない場合や工事が完成した後の保守管理等、施工業者でなければできない場合など、地方自治法施行令、町の財務規則に基づき随意契約を行う場合もあります。

基本的には町内業者優先で、公平性に配慮した発注に努めております。

## 2. まつぎき荘の運営について。

①料金改定後、7月から前年度比で非常に宿泊人員が減っていると・・・、現状の分析と今後の改善策を問うということでございます。

7月の料金改定に関わらず、4月以降すべての月で前年度を下回っているため、単に料金の改定が原因ではなく天候等様々な原因があるのかと思います。

特にこの夏の台風の影響は大きく、7月～9月に襲来した台風の影響により250人余りのキャンセルが発生しています。

対策としまして今後は、利用者が見やすくてよりスムーズな予約に結びつけられるようホームページを見直す準備を進めており、年内には稼働してまいりたいと思います。

また、営業面では従来のセールスに加え、神奈川県等にターゲットを絞った営業活動を積極的に行っていくとともに、お客様満足度を高めるために、食事内容の見直しは随時行ってまいります。

②まつぎき荘の建て替えの理念の一つに、地元経済の活性化があるが、町外業者からの材料調達が増えたと聞いているが、状況はどうかという質問であります。

伊豆まつぎき荘は松崎町観光の先導役を果たすとともに地元貢献という大きな役割があり、地元雇用、材料費等の地元調達で貢献しております。

現在、臨時パート職員合わせて45名の雇用があり、食事材料費は町内で45パーセント、飲物材料費は79パーセント、備消耗品費は47パーセントと町内での消費に貢献しております。

## 3. 道の駅整備計画についてでございます。

①直売所及び天城山房の売上見込みの数字は過大と思える。この見込みを見直し、精査すべきではないかという質問であります。

見直すつもりは全くございません。

渡辺議員の一般質問でもお答えしましたが、整備後の道の駅については、天城山房の飲食と直売所での販売が収入となり、全体の事業収益を算定するにあたり、年間の道の駅利用者を9万7000人と見込んでおります。

これは、町内や近隣の直売所の利用実績を勘案したもので、大手スーパーを利用していた方の消費行動が変わったり、近隣市町からの利用者、観光客などの利用も考えると決して過大な数字ではないと思います。

②町長は、まつぎ荘の利用者の減少や、順天堂病院の見込みの誤り等を考えると、これからの道の駅の運営が心配だと・・・、経営不振に陥ったときなど自らの責任をどう考えるのか、お答えくださいという非常に厳しい質問でございます。

私が管理者になったことが原因で、町の施設が赤字になった場合や、私が企画した新規事業が失敗した場合、当然、責任を問われますし、その覚悟を持って町長に立候補いたしました。

しかしよくお考えいただきたい。

伊豆まつぎ荘を建設する際には、元あった松崎プリンスホテルを買い取る案もあったはずですが、当時の当局が建替えを企画し、そして議会も同意し、伊豆まつぎ荘を建て替えた。結果、慢性的な赤字体制になっている。

道の駅についても赤字経営が漫然と続いているのですが、やっと平成29年度に再整備することが決定し、私が引き継いだものであります。

もし、私がまつぎ荘の経営を事務方に任せっきりにしていたとすれば責任を問われるでしょう。

接客、料理、誘客についても先頭に立って改善するよう努力しておりますし、道の駅については慢性的な赤字を解消するとともに、町内で生産されている農産物がお金にならないで埋もれている現状を改善したいと思い、直売所を整備するものであります。

順天堂大学附属静岡病院直通バスについても、運行できないかという提案は以前からあったけれども、チャレンジには至らない現状を鑑み一歩前に踏み出したもので、今後の対応策を模索するための実証実験であり、その結果のみで私の政治責任を問うということは果たしていかなものなのでしょうかと思うわけであります。

以上、私の答えであります。

○1番（深澤 守君） 一問一答でお願いいたします。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○1番（深澤 守君） 先に写真等で説明したいこともございますので、そちらの方の許可をお

願います。

○議長（土屋清武君） 許可します。

○1番（深澤 守君） それでは、先に町長の特定業者への発注を抑制するような指示があったのではないかという話なんですけど、これは町内業者のお弁当屋さんにも発注するなという指示があったと聞いたんですが、町長のその辺について、あったのか、なかったのか、答弁をお願いします。

○町長（長嶋精一君） 全くありません。

○1番（深澤 守君） 全くなかったということですのでよろしいですね。変更もございませんね。

（長嶋町長「はい」と呼ぶ）

○統括課長（高木和彦君） 町長はないということで・・・、もちろん一定の業者をとということではなくて、ただ、お弁当の取り方について、担当者の方に苦言があったという話がありました。町長が担当者にお弁当の取り方について苦言があったというのはありました。ただ、深澤議員がいま言ったような話ではなくて、言ったのは、何社かはぼくも聞いていないんですけども、町内にたくさんの飲食店があって、その中のいくつかということなので、それはどういうことかという話とあとは、当番制になっているかというような話を町長はしました。

それと、もう一つは、町内の給食サービスがありますけれども、そういう方々なんかを優遇したらどうかというような話があったことは、ぼくは承知していて、深澤議員が言ったようなこととちょっとニュアンスが違うものですから、それはぼくの方から報告させていただきます。

○町長（長嶋精一君） 私も議員になる前から高齢者の方々に対する弁当配達をやっていました、2年半。それで、三浦地区を回ったんですけども、非常に大変でした。車で横づけするところがなくて、階段、山道を歩いて行く所がかなりあったわけですね。

それで、高齢者の方々にボランティア精神で・・・、もちろんボランティアじゃないですよ。お金はもらっていますよ。ボランティア精神で山道を駆け上がっていくような、そういう弁当業者さんにも発注した方がいいのではないかと、それが公平じゃないのかと・・・、私は、それは言いました。

だから、町内業者に発注しちゃいけないなんて何も言っておりません。どこからそういうことが出たんですか。

深澤議員に聞きますが、どこからそういう話があったんですか。教えてください。

○1番（深澤 守君） 町長、逆にお伺いします。そこの点についてなぜそのように気になりま

すか。

○町長（長嶋精一君） 気になりますかって・・・、誰から聞いたんですかというのは、普通一般的に気になるんじゃないですか。なんでそういうことがわかったんですか。

私が最初に説明したとおり、建設業者うんぬんについてだと私は思っていますよ。それから、弁当については、町内の業者に発注してはいけないなんて全く言っていないということが、それが答えです。

○1番（深澤 守君） この問題につきましては、いろいろなこともありますでしょうから、お答えすることを差し控えさせていただきます。

次にまつぎ荘のことについてなんですけど、3月の料金改定の時に企画観光課長でしたか、まつぎ荘のじゃらの評価が高いと答弁しています。

最近調べましたら、まつぎ荘の総合評価が4.2で、ほかの有名どころを調べると、帝国ホテルが4.7、ホテルオークラが4.5、世界の有数なホテルの評価とほぼ同じ評価が出ているということは、この評価を見る限り、まつぎ荘のちゃんとした評価に繋がっていないんじゃないか。本当に思われますか。帝国ホテル、ホテルオークラと同等のサービス、施設・・・、まつぎ荘が・・・。その中の実態を掌握できない中で、まつぎ荘の料金を改定したということは、ちょっと無謀ではなかったかと思うんですが、町長、その辺についていかが思われますか。

○企画観光課長（高橋良延君） 夕食の評価がありました。料金改定した一つの理由として、やはり食事などサービスのやはり改善ということが一つ大きなところであったわけです。

そういった中で、いろいろまつぎ荘だけ、調理場だけじゃなくて、外部の方も交えまして、料理の改善、それについて進めてきました。そういった中で、夕食の評価というのは、今現在お客様の評価も取っていますけれども、ほぼその料金の改定前と変わらず、それと同等、そういった形で評価を今現在もいただいているわけでございまして、帝国ホテルですとか、そういったところのあれと同じというのは、やはりその料金にみあった形でどうかという評価もあると思いますので、まつぎ荘においては、今の料金という中でその食事の提供、それがお客様での評価ということになってくると思います。そういったことで感じています。

○1番（深澤 守君） 今の料理についてという話なんですけど、これは3月の議会で町長はこういうことを話しています。地場の産品を取り入れ・・・、今後より取り入れて、それに料理する方々がいろいろな工夫をし、勉強して工夫を重ねることによって、付加価値を高め、お客様に満足してもらうようなことを考えておりますと・・・、途中抜けますけれど、これは絶対成果として表れると思います。これは3月の料金設定の時の料理について町長が答えています。

何回か料理を食べたんですけれど、これは料理のことですから、そのいろいろな意見はあると思うし、考え方はあると思いますけれど、この写真を見ていただけますか。これは、出てきたのはなぜ・・・、イカのリングです。それと、お刺身についてはカジキマグロの・・・、要は噛むと水が出るような、絶対食べないような料理だとか、あと、冷凍の甘海老だとか、そういう部分が出てきて、ほぼほぼお客様の満足が得られるようなものではないと私は思う。

それについて、当局が、それでもお客様は満足しているんだという回答があれば、これは話にならないんですけれど、その辺について、料理がよくないからお客さんが減ったという認識はございませんか。

○町長（長嶋精一君） 全くありません。その写真はいつの写真でしょうか。

○1番（深澤 守君） これは先日まつぎ荘で議員の懇親会のところで食べた料理です。その前もこの料理が出ました。依田邸の懇親会の時もこのような料理が出て、ほぼ同じ料理が出ています。果たしてこれでお客様が満足するか。ほかの地域から来たお客様がこれで満足するか、どう思われますか。

○町長（長嶋精一君） 人の舌というのは様々であります。満足する人もあるでしょうし、満足しない人もあるでしょうし・・・。ただ、それを少しずつ変えていこうということは現在やっています。以上です。

○1番（深澤 守君） 変えております。変えておりますとはおっしゃいますが、私は3月の料金改定の時にできますかということ聞いております。

実験なりなんなりをやった方がいいんじゃないかという質問をしております。その時に、これから検討してやりますという答えをしております。それでこの結果であるならば、その町長が言っていることは、将来を担保できないんじゃないでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 将来を担保するという難しい表現をしましたが、どういう意味ですか。

○1番（深澤 守君） やるやると言いながら、結局今の現状ができていないわけですから、将来・・・、今からやりますと言ってもできないということではないでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 料理は、めぐりあわせというのがあって、わかりませんよ。だから、何曜日はこの料理をやっているというローテーションがあると思います。たまたまそういうことに関わったということもありますし、そういう料理を出していない日もございます。

○統括課長（高木和彦君） 町長が就任して1年になる中で、先ほどの回答の方にありましたけれども、料理ですとか、接遇についてもいろいろまつぎ荘の職員、またほかの振興公社の職員にしているところです。

深澤議員のおっしゃるところは、いつまで経っても料理の内容があまりよくないということでのお叱りなんでしょうけれども、今後も、私も町長も振興公社の職員とそういうご批判があったということを重く受け止めて、これについても研究したいと思いますので、ご理解ください。

○1番（深澤 守君） 料理についてはこれ以上言ってもたぶん同じ回答が返ってくると思います。この辺でやめたいと思います。

いま接客、お客様に対するご接待についての表現もありましたけれど、ちょっと見ていただきたいんです。これは、まつぎき荘の写真です。玄関先。

町長は現場主義という話をしました。現場に行って直接指示をなさっているということなんですけれども、これを見ていただけますか。

玄関先に草が生えているんです。わかりますか。見えますか。後で見てください。草が生えているんです。

これは、お客様は、例えば、まつぎき荘に行った時にぱっと見て、正面に草が生えている。どう思われますか。あまり快く思われたいはずです。

そして、もう1点、2階のフロアーの椅子、これは1か月以上、まだ直っていないと思います。この状態が1か月以上、1年以上続いているんです。これを見た時に、お客様がわざわざ松崎まで来て、これから楽しい思いをしようとしている時に、心象をどう思われますか。決していいはずはありません。こういうところが気がつかない部分があれば、本物のお客様に対する・・・、快く帰っていただく・・・。もう1回松崎のまつぎき荘に来たいという思いは出てこないのではないのでしょうか。

ましてや、いまInstagramがお客様の行動を左右する時代にあって、果たしてこの前で写真を撮りたいと思いますか。

その辺ができていない状況があるからこそ、お客様が少なくなっているんじゃないでしょうか。その辺についていかがでしょうか。

○統括課長（高木和彦君） もし玄関のところにぺんぺん草が生えていて、町長がまたいだら、町長、それは・・・ということになると思います。町長も毎日まつぎき荘に行っているわけではないものですから、そういう草が生えたとかがわからないことがありますので、それをいま町長にどうかというふうに追及されるのはどうかと思います。

また、その写真が見えなかったんですけれども、ちょっと目が悪くてわからなかったんですけれども、そういうことで、何か議員様の方がまつぎき荘に行って、これはおかしいなと思

ましたら、まつぎき荘は松崎町の資産であって、私ども職員だけじゃなくて、町民や議員さん、皆さんと一緒に育ててやらなければならない施設でもありますので、そういうところがありましたら、ご指導いただければ、すぐに直しますので、ご理解ください。

- 1番（深澤 守君） 今の統括課長の発言はちょっと腑に落ちないんですけど、例えば、町長は一年中行ってないから気がつかないという話をするんですけども、これは、例えば、施設全体を見回すとか、巡回するとか、気を使うというのは、お客様の・・・、扱うというか、快く来てもらうためというのは基本だと思うんですね。

少し話は違いますが、やっぱりその部分というのは、まつぎき荘の部分じゃなくて、長八美術館だったり、花の三聖苑の部分でも言えるんですね。例えば、長八美術館に行ったら花壇の石がごろごろしていたり、花の三聖苑に行ったら見るところに草があったりとか、花の咲いていないポッドがあったり、そういうのがあちこち行くと目立つんですよ。

そこで、花とロマンの里松崎町とか、美しい村といった場合に・・・、お客さんは気持ちよく・・・、来て、見てもらって帰ってもらう環境が整っているかどうか、それが全体的な松崎町の観光にも影響すると思っているんですね。

そこについて、観光の環境の整備についてお答えをいただきたいと思います。

- 町長（長嶋精一君） 振興公社に対する整備委員会という名称はちょっとはっきりしませんが、有識者が集まって話をする会がございまして、その中で、現在の道の駅のトイレがあまりきれいではないというような指摘を受けまして、即、1日最低2回は回ろうじゃないかというように、それは即実行しました。

そして、長八美術館の近隣の花壇がだいぶ花が少ないというようなご指摘もありまして、それについてもきれいに整備したところでございます。

したがって、毎日は無理とだしても、その時々私は極力回って、汚いところはないか・・・、別に豪華絢爛なものはいらないわけです。汚いところはないかということについては見回っているつもりです。ただ、たまたまそういうことがあるでしょうけれども、それについては極力ないようにやってまいりたいと考えています。

- 1番（深澤 守君） 先ほどの答弁の中に7月9月の台風関係のキャンセルが250人位という話がございました。そうすると、それを引いてもだいたい4か月余りでだいたい500人余り宿泊が減っているわけですね。自然環境を除いて・・・。

そうすると、その4か月余りで500人減っているという数字は大きいと思います。逆に通期で考えると1割以上減っていくという計算になりますよね。そうすると、これって、まつぎき



荘の営業の収益というものすごい大きい割合が出てくると思うんです。

ですから、500人減った部分のちゃんとした状況把握をしていかないと次の改善策には結びつかないと思うんですけれど、その500人位減った原因というか、そういうのは分析しているんでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 宿泊利用者減少の分析というご質問でありました。

まず、ちょっとデータから申し上げますと、今年の4月以降、特に7月、料金改定からの4か月間で743人の減ということでございます。このうちの250人余りが台風のキャンセルということで、深澤議員がおっしゃったように493人ですかね。実際それを除くと・・・、というような現象になっているわけです。4か月間。

ただ、4月から6月までの3か月間の分析も我われはしています。この3か月間で490人前年比で減っているんです。

何が言いたいかと申しますと、その前の3か月間では490人、その後の7月からの4か月間では台風の影響を除いたものを考慮すると490人位ということですので、減少率という面で、それは4月から6月までの方が高くなっているということをまず申し上げたいということが一つです。

どういった分析をしているかということですが、この減った原因を申しますと、予約形態、まず予約する形態ですね。これは、ネットからの申し込み、予約・・・、要するに、まつぎ荘のホームページのネットですね。ここからの予約者が宿泊者減の50パーセントを占めています。約半分。1233人減っていますから、その半分がネットからの予約が減っているということでございますので、先ほど町長が言いましたように、それはホームページ自体に問題があるだろうということで、いま見直しを進めているというのが、先ほど町長がお答えした回答でございます。

そういったことを含めまして、あと、営業対策も申し上げました。いろいろそういったことで、今後分析をしたうえで対策を講じてまいりたいと思います。

○1番（深澤 守君） 予約形態・・・、50パーセント減というものが出ているという話なんですけれども、これはちょっと違う話なんですけれども、常に・・・、当局はSMS利用だとか、ホームページ利用だとかという話をして、それを集客に結びつけたいという話は常に出てくる話で、これももう何年も前から同じ繰り返しをしていると思うんですね。その辺で、インターネット等を使ったものが本当にやっているという実感がない。ちょっと話は違うんですけれども、「と一ふや。」を活用するためにインターネット、SNSを使いたい。ホームページを作

りますという話をした時に、まだできていませんと・・・、フェイスブックを最近確認しました。更新日が3月6日、もうそろそろ年を越します。そのような形でそのホームページを作ります。買い替えます。見やすいようにしますといっても説得力がなくて、それをやりますからまつぎ荘の経営が改善します。宿泊者数が増えるという確証はないと思うんですが、その点についてどのようなお考えでいらっしゃいますか。

- 企画観光課長（高橋良延君） 確証がないとおっしゃいますけれども、やっていかなければならないという一つのことだと思います。いろんな方策でお客さんを・・・、誘客をするというよう中の一つの手段がやはりこういったSNS、ホームページ等々フェイスブックだろうなと思っています。

ですから、まつぎ荘においてもその予約の仕方が今のホームページだとどうしてもお客様にとって利用しにくいということもあるものですから、今回見直しをして、改良を進めているということです。

これは一つの手段ということでもありますので、いろいろなことをやりながらまつぎ荘に泊まっていただくように仕向けていくということであるかと考えています。

- 1番（深澤 守君） では、料理も含めてこれから集客等の事業の見直し等もあると思いますので、これからまつぎ荘が宿泊人員が増えることを期待しております。以上でまつぎ荘の質問は終わらせていただきます。

次に、道の駅の計画についてなんですか、先に町長にお伺いしたいんですが、南伊豆の売店に奥様を含めて年間どれくらい買い物等で行かれますか。企画観光課課長でも大丈夫です。

- 企画観光課長（高橋良延君） 私の方では特にあそこに立ち寄るということはありません。

ただ、年に何回かというのはいま詳しくは私は申し上げられませんが、南伊豆の方に行った時には立ち寄り場としての利用ということではしています。

- 1番（深澤 守君） 先ほど渡辺議員の時にも実数9万7000人という算定基準の問題が出ていると思うんですけど、算定基準の中で、南伊豆の湯の花売店、平均をとるために16万人余り・・・、参考に入っていると思いますけど、いま課長がおっしゃるように松崎の人間がなかなか湯の花売店に行かないわけですね。

そうすると、逆に考えると、南伊豆の人間、下田の人間がわざわざ20何キロをかけて大沢に来るかといったら、たぶん16万人のうちの数パーセントしか来ないと思われれます。その部分でいうと、その算出基準の最初の南伊豆の16万人というのは過大ではないか。

私は、ほのぼの売店に卸しておりますので、ある程度お客様の層その他を見ていると、毎日

通ってくるおばちゃんたちも見ておられますと、高齢ですので、車で出かける人は少ないと思われる。ヤオハンに行くのも大変だから、ほのぼの売店で買っているという人が8万人のうちの相当数いるんじゃないか。それを考えますとほのぼの売店の8万人という数字はちょっとあてにならない部分もあるんじゃないか。

それと、もう1点、ほのぼの売店に関しましては、だいたい2割は農協の仕入れであると、それと、湯の花売店についても2割位は観光客で占められているという数字を考えると、お互い16万9000人、平均を出す16万9000人、8万人の数字というのが果たして、大沢の売店に行くかということ・・・、行かないのではないかと考えていますが、その辺についての数字の算出方法についてどのようにお考えでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 先ほど渡辺議員の質問でもお答えしました。こちらの算出にあたって、やはり利用実績ですね。今現在どれだけ人が来ているかということ、それは大きな基になるだろうという中で、町内の類似のそういった施設、あと近隣の類似の施設等を勘案してということで申し上げました。当然これだけではないはずで、それは、私は申し上げましたけれども、近隣の町には大手のスーパー、近隣にも大手のスーパーがございます。そういった方々から消費行動が変化して、直売所でのお買い物あるいは観光客もある程度このところは道の駅という中では見込めると思います。

そういったことについては、あえて数字として見込んでおりませんので、そういったことはプラス要素というようなことになるかと思っておりますので、実際にこのところは9万7000人が過大うんぬんということでも言われましても我われの方としては、当然利用実績等を含めてそのところは算出したということですので。

それから、先ほど申しました直売所が1つから2つになったとしても半分にならなかったです。それ以上に利用者は増えているという実態もございます。そういったことも勘案すると、やはりその中の経営とか、そういった中でのやり方といったことも一つのお客さんと呼べるという要素になりますので、そういったことも含めて9万7000人と想定したということでございます。

○町長（長嶋精一君） 南伊豆湯の花は16万9000人、それからほのぼの売店が8万人というのは、これは間違いのない数字ですよ。実績ですからそれについて深澤議員はそれすらもおかしいと言っているんですけども、深澤議員にお願いしたいのは、批評家としては素晴らしいかどうか分かりませんが、ぜひ実践者になってください。

この数字は聞いてきた間違いのない数字です。

○1番（深澤 守君） これは水掛け論になるからあまり言いたくないんですけど、この16万9000人、確かにこれは実数ですよ。じゃあ、この16万9000人が松崎町に来るかという話です。来ない数字を参考事例として入れても意味がない。逆にほのぼの売店8万人がありますけれども、これは実数的な数字であって、ここの8万人の人間が全て大沢に行くか、現状行けないとぼくは判断して言ったまでの話で、この数字を否定していることは決してございません。

実質だいたいどれくらい行けるか判断しなければ、実態的な数字は掴めないという話です。続けて質問させていただきます。

先ほどより9万7000人の算出の問題があるんですけども、自分なりに解釈して計算しましたので、これは確認していただきたいんですけども。最初に下の8万3000人ですか、計算方式の・・・、前に全協の中で配られた資料の中で、最初の数字が・・・、見ていただけるように、より道売店が8万5000人、ほのぼの売店が8万人、それで平均が本当は8万2500人なんですけれども、約8万3000人という計算、ここまでは合っていますよね。

次に三聖苑、桜田のより道売店、ほのぼの売店の計算方式、平均の計算方式が、より道売店が8万5000人、ほのぼの売店が8万人、湯の花売店が16万9000人で、11万1000人、これで合っていますよね。

普通はここでだいたい3社の計算をすればいいんでしょうけれども、この計算だと数字が合わなくて、どういう計算になるかというのと、この8万3000人と11万1000人を足して2で割ったのが要は松崎の三聖苑の9万7000人、この計算方式でよろしいでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 8万3000人と11万1000人を足しまして平均したものでございます。

○1番（深澤 守君） この計算方式があっているのであれば、考えようによっては16万9000人の多い部分の・・・、全体量として多い湯の花売店の平均値というのは2回入っていることになりますよね。

そうすると、実態よりも入ってくる予想人数というのは膨れるような気がするんですけども、その辺についてどう思われますか。

○企画観光課長（高橋良延君） 膨れるということじゃなくて、この3施設の平均のところを見込んで算出したものでございます。

○1番（深澤 守君） 5分延長をお願いします。

○議長（土屋清武君） 5分延長を許可します。

○1番（深澤 守君） いろいろな計算方式がありますので、こういう計算でやっていたという

ことを皆様に認識していただいて、それが、ぼくは多いと思います。

だけど、ほかの人はどう考えるかというのは皆様の判断で、これからの道の駅を考えるうえで考えていただきたいと思っております。

続きまして、天城山房の収支でお伺いします。天城山房の収支については、これは、最初にもらった計算が、天城山房収支9824万円、利用者数2万2054人で割って平均を出して、実態の9万7000人に0.4・・・、4割をかけた数字で算出していると思うのですが、これは、先ほどもらった資料だとこれは平成29年の収入について食事が751万円、喫茶については140万4000円位、そうすると天城山房の食事の部分については、900万円位、利用者数が上をみると入館者数ベースで言うと、1万4000ということは・・・、これは計算するとだいたい客単価が600円位になる計算に実質でなると思うんですけど、そうすると、この計画書のデータと比べると、これはすごい開きがあるんですけども、その開きについてどのような考えをお持ちでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 天城山房の収入の見込みについては、平成29年度の天城山房の収入実績が2624万円、そこに利用者で割りまして、1200円という形で単価を見込んだものでございます。

○1番（深澤 守君） 今の説明ですと、いま、天城山房自体の売上が、これを見ると食事、喫茶、売店ですね。構成要素が・・・。

これは、今度直売所ができた場合に、直売所の売上というのは、削除されていかないとおかしいですね。食事だけの部分ですね。今度計画される天城山房・・・。

そうすると、これは元々の2000万円余りの数字というのは、あてにならない数字じゃないんでしょうか。

○企画観光課長（高橋良延君） 確かにこの単価1200円ということについては、天城山房を利用した消費額という形になるわけです。その中には一部売店という形であるわけですが、これはそれぞれにここを分けるということではできませんでした。

したがいまして、このような形で見込んだものでございます。ただ、もう一つ消費単価として見込んだ算出根拠といたしましては、今年の3月に政策科学研究所というところで賀茂地域の観光の消費額の調査をしております。

これによりますと、松崎町の観光客の一人あたりの消費支出額、飲食費で1395円という統計のデータが出ております。そういったこともありまして、これは当然分けることが不可能であったものですから、そういった賀茂地域のこういった統計データも根拠の一つとして、1200円という形で見込ませていただきました。

○1番（深澤 守君） それと、もう1点なんですけど、先ほど天城山房の成功の秘訣は食事という話が出てきたと思います。

今回のまつぎ荘の改革についても食事をいう話が出ておりましたが、これについてぼくはまつぎ荘の食事については、これはもう落第というか、及第点を付けられる話ではないと思う。

その中であって、天城山房の食事をほかのところと差別化するというものについては、私は信用できないというか、できないのではないかと思います、その点についてはどう思われますか。

○統括課長（高木和彦君） 先ほどからお話を聞いているんですけども、まず9万7000人から今回の話が始まっていますけれども、それは今の時点で9万7000人が正しいとか、どうのこうのというのはわからない話で、すごくお金をかけて民間の調査、リサーチ会社を入れて推計するというのもできるかもしれませんが、これはいまあまり議論するよりもやはりさっきの渡辺議員さんもいろいろ心配してくれて話が出ましたけれども、9万7000人に届かなければ、職員を減らすとか、そういう工夫もします、料理一つひとつ、今度の道の駅の料理なんかについてもいろいろご心配はされているようですけれども、やはりこれから生まれ変わった道の駅をつくらうとしているわけですから、そういう工夫もいたしますので、そういう形でご理解いただけないでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 深澤議員が全く信用しないということであるならば、それはそれで結構です。私は、成功するようにやりますから。

それと、天城山房の料理については、その近くに住んでおられる熱狂的な大沢の・・・、私どもを支援するというか、町を心配してくださる方が料理についてもいろんなご意見を言ってもらっています。

松崎という町は、海に囲まれているのに、海の幸がないじゃないか、海鮮丼をやった方がいいんじゃないか、あるいは今現在子どもさん用のお子様ランチみたいなものもないじゃないかというようなこともいろいろ話をしてもらっています。これについては、振興公社の女性たちにアンケートを取って、これからいろいろとそういうニーズがあるんだけれども、あなたたちはどういうものを出したいですかというようなことをいま考えております。

中には非常にがんばっている女性がいますものから、そういう声も聞いてやってまいりたいと思っています。

料理だけじゃなくて、いろいろな面で工夫をしていきたいと考えています。

○1番（深澤 守君） 渡辺議員の質問の中で、最初に・・・、一番最初の計画は、各界の人間ですね。大沢区の間人ですとか、常葉も入ったでしょう。静岡も入って作ったわけですね。その中で基本構想を作りました。その後、町長はいろいろの所を見た感覚で、依田邸じゃなくて、道の駅の方にちゃんとしたレストランをつくった方がいいという計画に変更したわけですね。

これは、最初の部分は町民が参加した部分、後半については、町長とその他の人たちが作った部分、ですから、町民が考えた部分と行政が新しく作る部分の計画がかい離してきているのであれば、もう一度全体の構想を考え直すべきではないかと思うんですが、その計画についての見直しをするという考えはございますか。

○町長（長嶋精一君） 先ほど申し上げましたとおり、計画を変更する意は全くございません。

○1番（深澤 守君） 町民の皆さんの話を聞くと・・・、町長はいろいろな人の話を聞いているという話を聞きますが、私の聞いている周囲の感覚ではほぼほぼあそこは行政がやっても、「松崎町がやっても無理だ」と「やんない方がいいよ」という話を聞きます。

ですから、町長はこの前の広報の中で声なき声を聞くという発言をしているのであれば、やはり真の町民の声を聞いて、直売所の計画に推進していただきたいと思っております。これは私からの希望です。

以上で終わります。

○町長（長嶋精一君） 声なき声を聞く・・・。

○議長（土屋清武君） 町長、時間がありませんから簡単にしてください。

○町長（長嶋精一君） 私が声なき声を聞きたいということについては、本当に困って、声を出さない人について聞きたいということです。大きな声を出す人はそれはそれでいいでしょう。でも、声なき声を聞いていきたいということ。これらについての声なき声とはちょっとニュアンスが違います。以上です。

○議長（土屋清武君） 以上で深澤守君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 1時55分）